

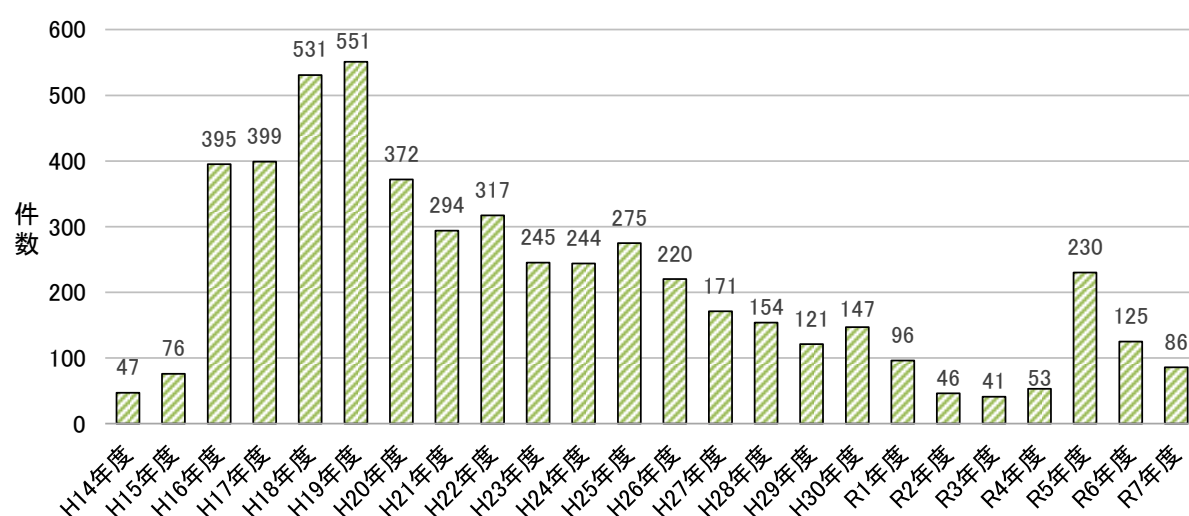
Ⅲ 相談・情報提供

感染症情報センターでは、相談・情報提供業務を情報センターの情報収集、発信機能の一つとして位置付けている。本項目の報告については、年度単位での実績を報告する。

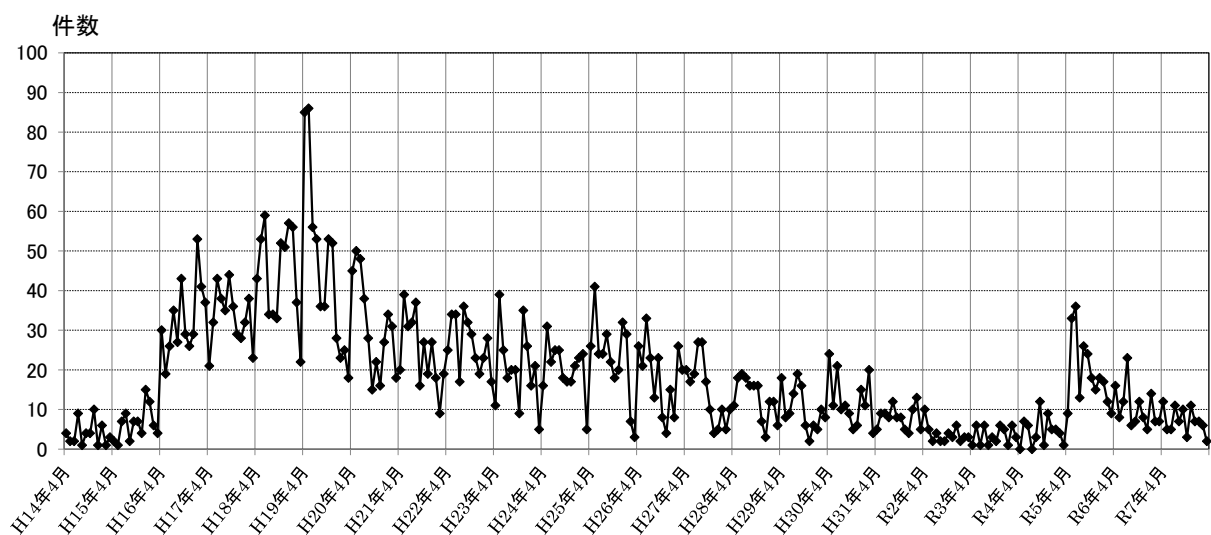
1 相談及び情報提供件数の推移、相談者又は情報提供先の属性、内容、方法

感染症疫学情報担当では、平成 14 年 4 月に感染症疫学情報担当が発足して以来、情報の収集・解析及び還元情報の効果を評価するために、担当に寄せられた問い合わせ内容を、相談データとして Microsoft Access 上に構築したデータベースに蓄積し、相談の傾向を把握している。

年度ごとの相談及び情報提供の件数は、感染症情報センターが県庁から移管された平成 16 年度に大きく増加し、最多となった平成 19 年度まで増加が続いたが、その後は令和 4 年度にかけて減少傾向にあった。新型コロナウイルス感染症が 5 類定点把握疾患となったことをきっかけに令和 5 年度に大きく増加したものの、令和 7 年度の相談及び情報提供件数は 86 件であり、2 年続けて減少した（図Ⅲ-1-1）。また、月別の件数を図Ⅲ-1-2 に示した。令和 7 年度は、4 月が 12 件(14.0%)、7 月及び 11 月が各 11 件(12.8%)、9 月が 10 件(11.6%)の順に多かった。



図Ⅲ-1-1 年度別相談及び情報提供件数

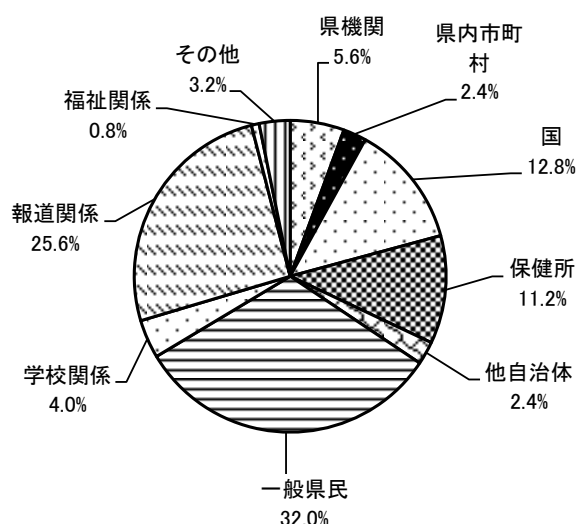


図Ⅲ-1-2 月別相談及び情報提供件数の推移

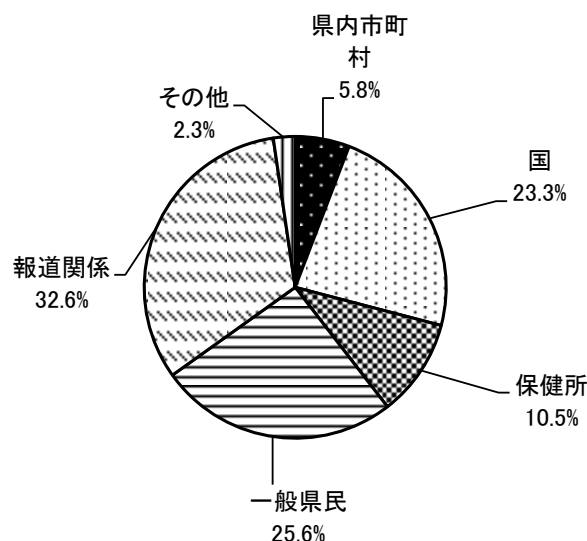
相談者及び情報提供先の属性でみると、報道機関の28件が最も多く、次いで一般県民からが22件であった（表Ⅲ-1-1、図Ⅲ-1-3）。

表Ⅲ-1-1 相談者・情報提供先別、内容別 受理件数

	疾患について	新型コロナウイルス感染症関係	インフルエンザ	麻しん	感染症全般	その他	総計	割合
県内市町村	4	1	0	0	0	0	5	5.8%
国	14	0	0	5	1	0	20	23.3%
保健所	4	2	0	0	2	1	9	10.5%
一般県民	4	9	1	0	8	0	22	25.6%
報道関係	9	0	17	2	0	0	28	32.6%
その他	1	1	0	0	0	0	2	2.3%
総計	36	13	18	7	11	1	86	100.0%
割合	41.9%	15.1%	20.9%	8.1%	12.8%	1.2%	100.0%	



令和6年度

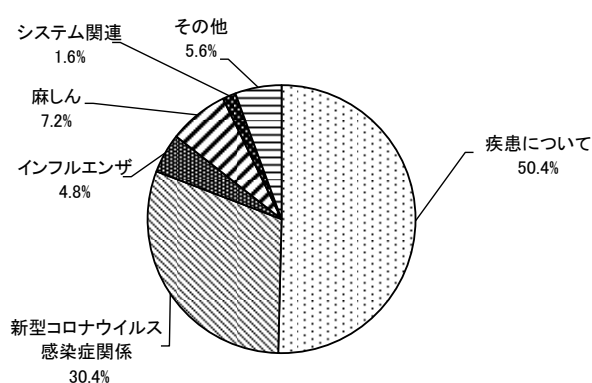


令和7年度

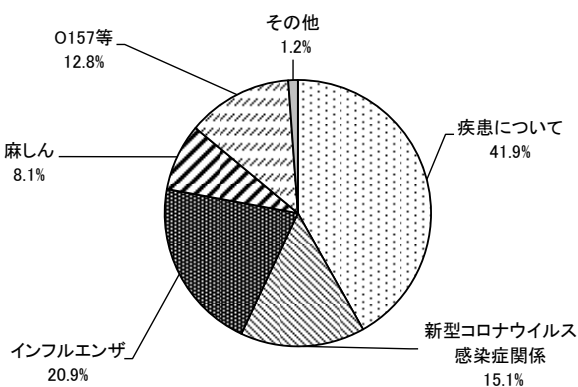
図Ⅲ-1-3 相談者・情報提供先 内訳

相談内容を件数及び割合で見ると、最も多いのは前年度と同様に「疾患について（新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ・麻しんを除く）」であり、36 件（41.9%）だった。相談者・情報提供先の内訳は、国が 14 件、報道関係が 9 件の順に多かった。内容としては、種々の感染症患者の発生動向に関する内容であった。（表Ⅲ-1-1、図Ⅲ-1-4）

「疾患について」に続いて相談の多かった「インフルエンザ」は 18 件（20.9%）であり、前年度の 6 件（4.8%）と比較して件数・割合ともに大きく増加した。流行時期が例年より早く、二峰性の大きな流行が見られたことが影響していると考えられる。相談者・情報提供先としては、17 件が報道関係、1 件が一般県民であった。相談内容については、定点当たり報告数や流行状況等の患者の発生動向に関する内容が大半を占めていた（表Ⅲ-1-1、図Ⅲ-1-4）。



令和6年度



令和7年度

図Ⅲ-1-4 相談等内容分類

方法別では、電話による相談が 60 件(69.8%)と最も多く、次いで e-mail による相談が 20 件(23.3%)、WEB を通じての相談が 5 件(5.8%)、その他の方法による相談が 1 件(1.2%)であった(表Ⅲ-2-2)。

表Ⅲ-1-2 方法別 相談等件数

電話	WEB	e-mail	その他	総計
60	5	20	1	86
69.8%	5.8%	23.3%	1.2%	100.0%

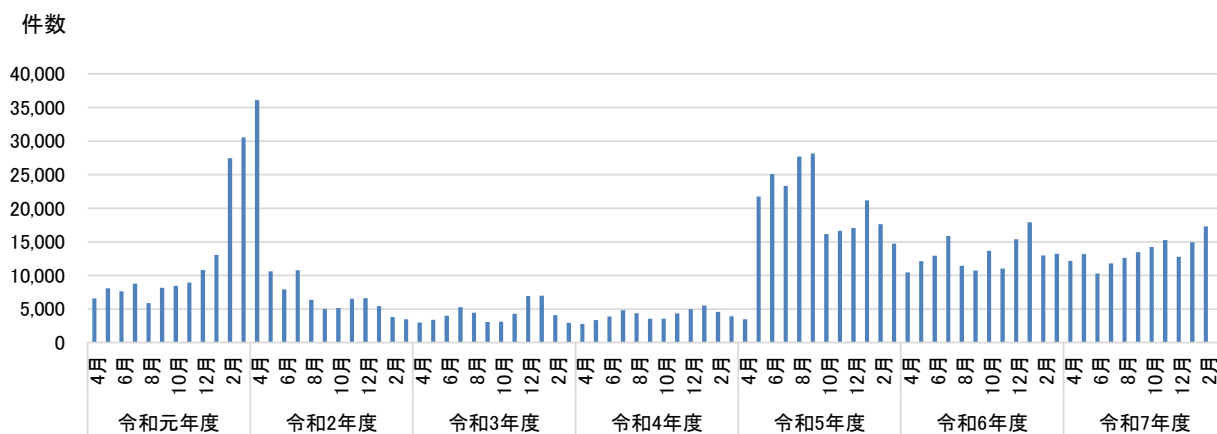
2 ホームページによる情報提供

感染症情報センターでは、主として医療機関や市町村等関連機関への迅速かつ正確な感染症に関する情報の提供という視点から、埼玉県感染症情報センターホームページを運営している。

令和7年度の月当たりのアクセス件数は前年度と同様に、10,000～17,000件と年度を通じて高い水準で推移している。

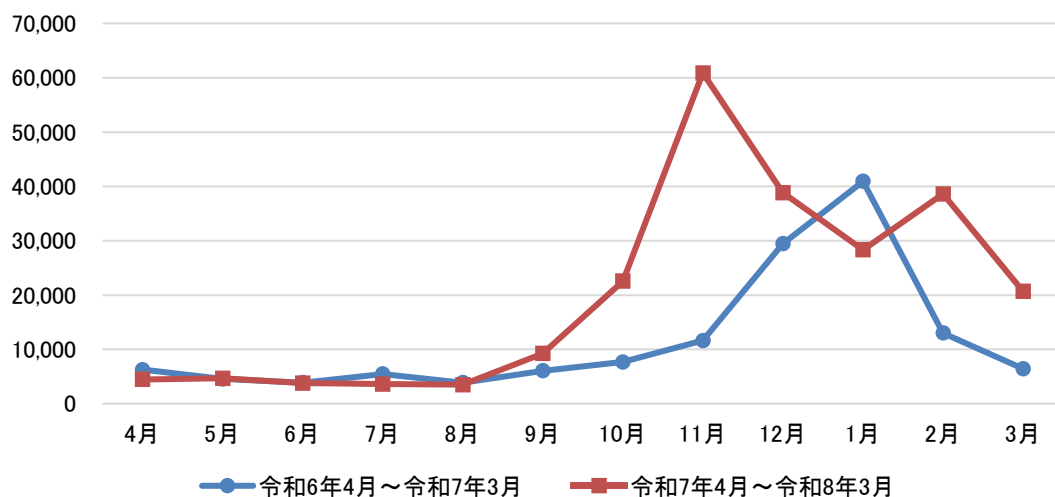
令和7年度は令和7年11月（15,249件）及び令和8年2月（17,287件）に大きなアクセス件数のピークが見られた。これはインフルエンザの流行と重なるため、インフルエンザへの関心が高いことが伺える。特に、令和8年2月はインフルエンザのシーズン中2回目の流行ということもあり、令和7年度において最も高いアクセス件数となった（図Ⅲ-2-1）。

総アクセス件数は令和6年度の157,830件と比較して、令和7年度は160,493件とやや増加し、令和元年度以降でみると、令和5年度に続き2番目に多いアクセス件数となった。



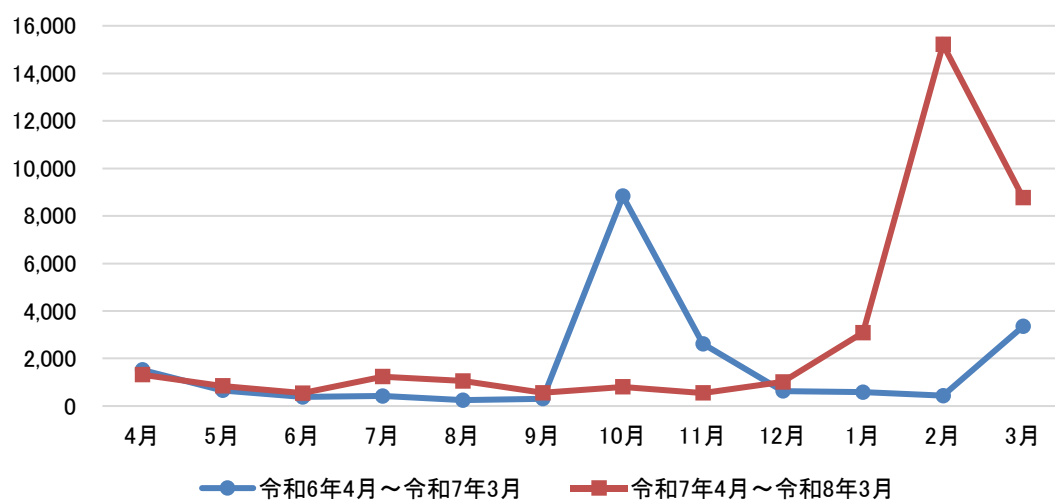
図Ⅲ-2-1 感染症情報センタートップページアクセス件数

令和6年度及び令和7年度の「インフルエンザ流行情報」の月別アクセス件数を図Ⅲ-2-2に示した。令和6年度の平均月別アクセス件数が11,596件であるのに対して、令和7年度の平均月別アクセス件数は約19,929件であり、大きく増加した。1回目の流行があった令和7年11月と2回目の流行があった令和8年2月にそれぞれ60,907件と38,608件とアクセス件数が増加した。



図Ⅲ-2-2 ホームページ「インフルエンザ流行情報」へのアクセス件数

また、令和7年度は前年度に引き続き麻しんの発生が見られ、それに伴い「麻しん及び風しん流行情報」へのアクセス件数が大幅に増加した。特に、県内で麻しんが発生した時期と重なる令和8年2月には、15,219件と最も多いアクセスを記録した。



図Ⅲ-2-3 ホームページ「麻疹及び風しん流行情報」へのアクセス件数